HYORON Book Review

私のおすすめ この1冊！

総義歯臨床 成功へのロードマップ
クラニオフェイシャルパターンに基づく診断から治療戦略まで

吉松繁人 著

A4判・152頁・定価（本体8,000円＋税）
2015年4月16日　ヒョーロン・パブリッシャーズ刊

下川　公一
福岡県北九州市・下川歯科医院

『総義歯臨床 成功へのロードマップ』という本が，ヒョーロンから出版された．本書は，著者が作ったクラニオフェイシャルパターン分析という造語をもとに，総義歯を診断し，作製に応用したものである．

■矯正学的な捉え方

総義歯を作製するにあたって，過去にその患者さんの天然歯列の上下関係が矯正学的にどのような形のものであったかを知っておくことは，大変重要である．すなわち，著者が述べているように，それは顎関節の順応性や調節彎曲の角度などに影響してくるわけである．

また著者は総義歯作製時において，その数値的な分析よりも傾向的な情報を優先している，と述べている．初診時のクラニオフェイシャルパターンですべてを決定するのではなく，症例によっては治療用義歯で経過を見ながら再評価が必要である，と述べている．これは，さまざまなパターンの症例を提示し，印象採得・咬合採得・人工歯排列において，舌と義歯との関係を十分考慮することを述べているが，まさにその通りである．

■慎重な対応が必要な部分

治療計画の中で，まず治療用義歯を作製し，舌房の確保をしながら下顎位が安定したところで人工歯排列を行い，その調整を繰り返し，安定したところでコピーデンチャーを作製，それを用いて新義歯作製を行うという手順であるが，下顎位が変化するのに合わせて研磨面形態を調整していくとよい，と述べている．

新義歯が装着されたら，ティッシュコンディショナーを用いながら咀嚼訓練を行い，そして間接法にてリライニングを行って，十分な吸着を確保している．おそらく患者さんは十分に満足しているのであろうが，義歯装着時の写真を見ると気になる点がないわけではない．

例えば118頁に掲載されている完成義歯の下顎の装着写真を見ると，左側の7番がやや舌側寄りに排列されているように見える．このように人工歯排列と下顎の歯槽頂が交叉しやすい場所では，その交叉部分で疼痛が起こりやすく，それを調整するのがきわめて難しくなる．また，舌を咬むという現象も起こってくるので，経過をみていく必要がある．これらの注意点についても言及されたほうがよかったのではないか．さらに142頁に掲載されている症例では，左側の咬合が反対側と異なり，違和感があるので，今後，十分な調整が必要になるであろう．

そういった意味では，もう少し慎重な対応が必要なところがあるのは否定できない．

■患者満足度の根拠

義歯に関する患者さんの満足度は，どうしても旧義歯との比較になる．しかし，術者としてはそうではなく，審美性・機能性・安定性を兼ね備えた総義歯を装着させたいわけであるが，それには長い経験のなかで生まれてくる要素が多い．

著者のお父上は，数多くの素晴らしい総義歯を作製され，多くの患者さんに感謝された方であった．著者はその患者さん達を継承して現在がある．お父上の装着された総義歯を可能な限り数多く観察しながら，もう一度，動的な義歯の要点を，審美性を含めて整理されるとさらに良いものになると思う．総義歯は，術者，患者さん，技工士の共同作業である．今後のさらなる発展に期待したい．

きわめて厳しい書評となったが，吉松先生はかつて私が指導した歯科医師の一人であるところから，率直な意見を述べさせてもらった．しかし，若くして成書を物した努力には大いに敬意を表したいし，若い歯科医師も吉松先生の前向きな姿勢を学んでほしい．